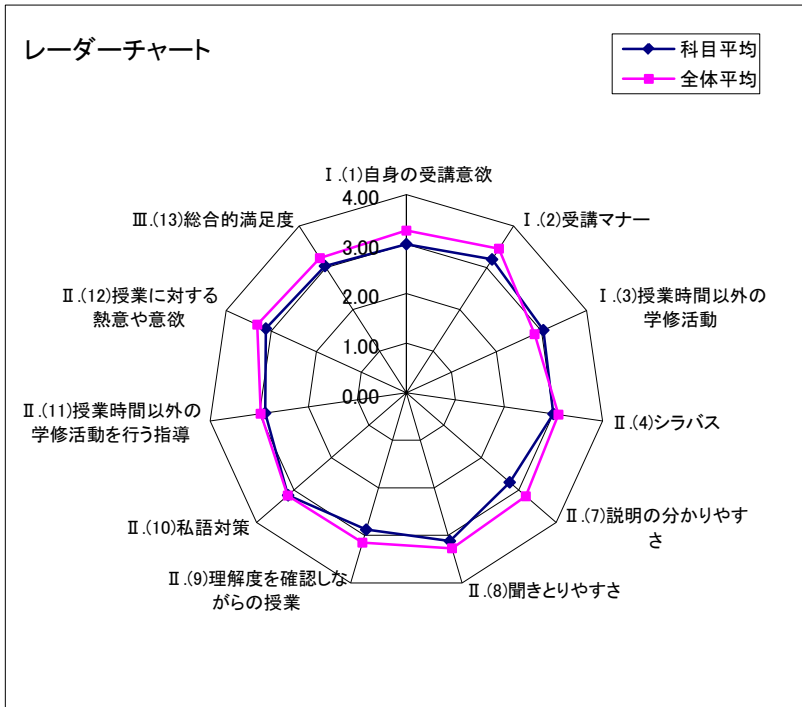
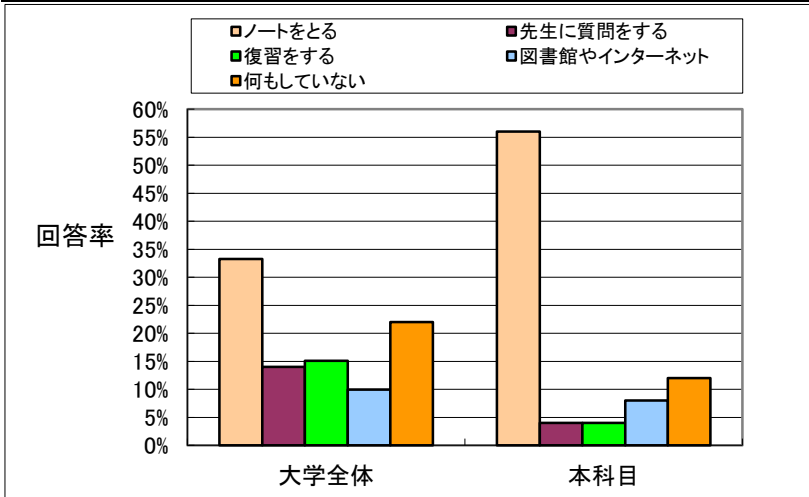


講義科目 授業アンケート結果



※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉		ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(14)	授業を理解するための工夫	0.56	0.04	0.04	0.08	0.12



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	I.(1)	3.00	3.27
	I.(2)	3.20	3.46
	I.(3)	3.04	2.85
講義内容・方法	II.(4)	3.00	3.10
	II.(5)		
	II.(6)		
	II.(7)	2.76	3.19
	II.(8)	3.12	3.27
	II.(9)	2.88	3.15
	II.(10)	3.16	3.17
	II.(11)	2.88	2.97
	II.(12)	3.12	3.31
	総合評価	III.(13)	3.04

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 I.(1)~(3)	3.08	3.19
講義内容・方法 II.(4)~(12)	2.99	3.17
総合評価 III.(13)	3.04	3.23

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2013年度 前期
時間割番号	1133
科目名	企業と法律 I・会社法
教員名	

①授業計画の達成度について
 株式会社の各種法制度の全体像を把握すること、条文の解釈及び判例を素材として法規適用の実際を学習させることを主目的としている。設問形式になっているテキストを使用して、これをシラバスに掲載の順序で講義している。とくに法律学の学習は、条文が基本であるから、六法の携帯は常日頃から厳しく指導している。特に法律解釈に関する能力を養成するため、授業において自ら考えることの大切さを教えている。
 到達目標は法律を勉強する学生にとっては必須のものと考えている。難易度的には、最初は難しいと感じるかもしれないが、判例等を学習するさい条文の運用を具体的に勉強するので、継続的に勉強すれ

②授業の進め方について
 声は大きい方ではきはきと話すので大教室でも後方にいる学生にもわかりやすいと思う。どうしても十分でないときはマイクを使う方法もあるのでこの点は問ではない。授業の中で判例を読む練習において、学生の個々の理解の様子を確認するため、教室を巡回しながら見ることにしている。私語対策にもなる。多くは熱心に課題に取り組んでいる。ただし学生の中には課題に取り組まない者がいるが、そのようときは個別に注意するようにしている。こうしたアウトプットの学習方法は、考えることが重要な取り組みになり、自ら授業へ積極的に参加することが要求される。学習効果は大きいと考える。
 学生の満足度は、平均値より低い、学生の層は両極端に分かれると思う。いつも熱心に中央から前のほうに着席して講義を聴く者が比較的まとまった数でいる。これら学生には、講義を聴くというインプットの勉強においても、六法をみながら読む姿勢がうかがえる。白紙と講義

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について
 従来の授業方法の改善により、大体同様な講義をすることになるが、その年の特徴があると考えられる。留学生が多い場合には、やはり日本語に対する理解度が十分でない場合がないではない。そうしたときは消極的の回答が多くなるのではないかと。しかしながらアンケート結果は、自己に関するものはやや消極的であるが、その他は全般的に普通である。